

消化器内科コース

◆ 一般目標

消化器内科医の守備範囲は広く、習得すべき技術も多数ある。第一線の臨床病院であるけいゆう病院は消化器疾患の症例が豊富であり、緊急入院も多い。充実した専門医チームのもとで、多彩な症例を経験し、消化器内科専門医となる基盤を築く。

- 1 消化器内科医は優秀な内科 **generalist** であることが求められる。
- 2 各消化器疾患の専門医である前に、消化器全般の **generalist** であることが求められる。
- 3 緊急処置ができるとともに、慢性疾患の指導を正しく実施できる医師となるべきである。
- 4 優秀な臨床医であるとともに、質の高い臨床研究、基礎研究を行う。

◆ 行動目標

- 1 **EBM** を臨床現場における実地診療に役立たせるために、疾患の病態生理、文献の検索法と解釈法を学ぶ。
- 2 病歴と身体所見を正確に把握して、適切なコンサルテーションを受けて、標準治療を行えるようにする。
- 3 急性腹症・消化管出血の診療が正しく行える。
- 4 慢性疾患（肝疾患、炎症性腸疾患）、機能性胃腸疾患の診療、指導法と進行癌の緩和医療を習得する。
- 5 消化器癌の治療法の適応、選択の判断でき、化学療法を正しく実施する。
- 6 内視鏡のルーチン撮影、生検手技を習得し、読影と病理診断から最終診断に至るプロセスを学ぶ。
- 7 腹部の超音波検査技術を習得し、腹水穿刺、肝生検・腫瘍生検を安全に行う手法を学ぶ。
- 8 **CT**、**MR**、上部消化管造影、下部消化管造影の読影法を学ぶ。
- 9 積極的に症例報告を行うと共に、症例のデータを集積・分析し、臨床研究を開始する。

◆ 指導医

永田 博司（院長、日本内科学会指導医 日本消化器病学会指導医、日本内視鏡学会指導医、日本肝臓学会専門医）

水城 啓 (部長、日本内科学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医、日本医師会認定産業医)

中下 学 (医長、日本内科学会専門医 日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医 日本医師会認定産業医)

赤木 秀子 (医員、日本内科学会認定医、日本医師会認定産業医)

松本 由華 (医員、日本内科学会認定医、)

◆ 認定施設

日本消化器病学会認定施設

日本消化器病内視鏡学会指導施設

◆ 研修内容

研修期間 原則 3 年

1 年度 内科 **generalist** としての能力を向上させるため、消化器以外の疾患の主治医にもなり、内科全般の症例を幅広く経験するとともに、内視鏡ルーチン検査技術を身につける。内科学会地方会で症例報告を行う。

2 年度 消化器 **generalist** としての能力を身につけるために、消化器疾患症例の主治医となるとともに、初期研修医の指導を行う。**ERCP** と内視鏡的止血術を習得する。消化器病学会地方会で症例報告を行う。

3 年度 上・下部消化管、肝臓、胆道・膵、腫瘍学などの専門医を目指した教育を行い、**EMR**、**ESD**、肝細胞癌の **ablation**、胆道・膵ステント留置など各 **subspecialty** に必要な技能を学ぶ。専門医・臨床研究のテーマを決めて、データの収集解析法を学ぶ。